

国際交流センター主催 1 年間のイベント

<4 月>

*海外協定校短期研修&短期留学説明会(終了)

日時: 4 月 18 日(木) 17:00 ~

方法: オンライン

※興味のある方は Google Classroom 「国際交流センター
海外協定校への短期研修&短期留学」に登録して下さい。
クラスコードは、xcx662 です
(授業のクラスコード一覧には記載されていないので
ご注意ください。)

本学学生が参加できる短期研修・短期交換留学先:

吉林外国語大学(中国)/釜山女子大学校(韓国)/

韓南大学校(韓国)/

カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校(アメリカ)/

コンケン大学(タイ)

*英語サロン Organizer: Mark Lewis(本学専任教員)

4 月より開始します。

◇町田キャンパス 12:40-13:10 国際交流室(1202)

4 月 17, 24 日/5 月 1, 8, 15, 22, 29 日/6 月 5, 12 日

◇千代田三番町キャンパス 12:40-13:10 1214 室

4 月 15, 22 日、5 月 13, 20, 27 日、6 月 3, 10, 17, 24 日

<6 月>

*留学生のための芸術文化鑑賞会

<7 月>

*八王子市立横山第一小学校特別支援学級との交流授業

<8 月>

*中相原町夏祭りの参加

<11 月>

*釜山女子大学校との文化交流プログラム

*国際交流センター映画上映会

<12 月>

*スピーチリサイタル

<2 月>

*ホームステイ・ホームビジットプログラム

*八王子市立横山第一小学校 6 年生との国際交流授業

(状況により変更の可能性があります。詳細が決定次第ご
連絡をいたします。各プログラムの詳細は p.4 掲載の各学
科教員が国際連携室にお問い合わせください)

いろいろ募集中

*日本語会話パートナー ~留学生との
会話を楽しみましょう~

*言語チューター&アメリカの大学生と
メール交換

申し込み方法: 下の QR コードから申し
込んでください。(アメリカの大学生と
のオンライン交流の募集は終了。)



本学が目指すべき国際化の理念

家政系の大学である本学では、その特長
を活かし、本学にふさわしい国際化を目指
す。すなわち、学校、職場、地域にあって、
「生活者」の立場から、異文化を受け入れ、
多文化共生を図れる人材を育成すること
を理念(目的)とする。「人材」には、学生
のみならず教職員および地域住民も含む。具
体的には以下の力を涵養していく。

- (1)他者を国籍、民族、性別、年齢などの枠
で判断するのではなく、同じ人間とし
て心を開き、相手の人権を尊重するこ
とができる。
- (2)自国文化も他国文化も数ある文化の中
のひとつとして客観的に捉えること
ができる。
- (3)国際情勢に関わる情報の本質を理解す
ることができる。
- (4)本学で展開してきた知識体系の蓄積を
発信することで国際社会に貢献でき
る。
- (5)よりよい社会および世界を構築するた
めに、自分ができていることを見だし、
実行していくことができる。

海外協定校 王立ロンドン大学ホロウェイ校 (ロイヤル・ホロウェイ)と交流しました！

◆ロイヤル・ホロウェイの学生さんと日英で3度交流

2023年度共通教育科目「異文化交流α」(英国研修)の参加者14名が、ロイヤル・ホロウェイの3年生ヤズミンさんと7月にオンラインで交流し、9月の現地訪問時に対面で再会しました。その後、東京の他大学に短期交換留学生として来日したヤズミンさんが、千代田三番町キャンパスを訪問し3度目の再会！その後も個人的な交流が続いています。



▲ロイヤル・ホロウェイを見学



▲千代田三番町キャンパスでは本学学生が歓迎
(前列中央がヤズミンさん)

◆ロイヤル・ホロウェイのスタッフが本学訪問

2023年10月26日(木)にロイヤル・ホロウェイのスタッフであるエイプリル・リュウ氏が本学を訪問しました。本学創設者大江スミ先生は、ロイヤル・ホロウェイの前身となったベッドフォード女子大学で、初めての日本人留学生として学んでいます。教員と学生で本学をご案内し、両学の縁を確認する良い機会となりました。



◀大江スミ先生の像の前で
(中央がリュウ氏)

ベトナムホーチミン市師範大学との国際交流協定オンライン調印式を 高大連携国際交流イベントとして実施

2023年6月15日（木）の日本時間18時～19時30分に、本学とホーチミン市師範大学との国際交流協定オンライン調印式を行いました。

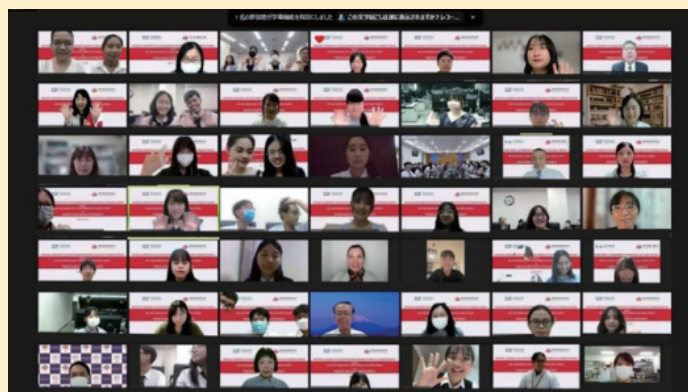
今回の調印式は、二部構成とし、第一部は両学長の挨拶を中心とした調印式、第二部として、大学同士の学生交流および、ホーチミン市師範大学附属高校の生徒と、本学の教育連携協定校を中心とした関係の深い高校の生徒を招いての交流会を行いました。第二部では、最初にホーチミン市師範大学日本語学部が日本語でプレゼンテーションを行い、続いて本学の学生代表として、今年1月に発足した、学生広報スタッフRosesのメンバーが大学紹介や学びについてのプレゼンテーションを行いました。高校同士の交流は英語でのプレゼンテーションを実施。本学が、生活科学系統の学部を持つ大学であることから、「衣食住や教育など、お互いの国の文化について」をテーマにしました。ホーチミン市師範大学附属高校からは、ベトナムの食事や文化についてのプレゼンテーション、日本からは、本学の教育連携協定校である神田女学園高等学校をはじめ、国際交流に関心の高い佼成学園女子高等学校から、若者のファッションや流行、食文化等についてのプレゼンテーションが行われました。後半は、ブレイクアウトルームに分かれてマルチリンガルで少人数の交流を深めるなど、オンライン

ツールを駆使した交流が実現しました。

日本からは本学教職員約40名、大学生15名、高校生14名、ベトナムからは、教職員約10名、大学生・高校生約40名と、合計約120人がオンライン上で一同に介しての交流となりました。高大接続の観点からも、大学同士の協定締結の場を学生や高校生に体験してもらい、国際交流に参加してもらうことで、大学での学びを体験してもらえたことに大きな意義があったと感じています。

※その後、ホーチミン市師範大学との教育・研究の連携・交流が活発に行われ、2024年、3月7日、本学児童学科の松山直輝先生に、日本スポーツ振興センターにて開催されたSFTカンファレンス2024で、スポーツ庁長官感謝状が授与されました。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000089271.html>



▲オンラインでつながる日越高大生

横山第一小学校と「国際交流授業」

2024年3月5日（火）に本学の中国人学生が、横山第一小学校の6年生と特別支援学級で国際交流授業をしました。どちらの授業でも、まず学生が中国に関するクイズと簡単な中国語レッスンを実施。「中国では誕生日に何を食べる?」「中国の全国の小学校で授業の合間に必ずやることは?」などの答えに「えーっ!」という大きな声が上がりました。6年生の質問コーナーでは活発な質問と応答が交わされ、特別支援学級では子ども達が作った釣り堀と一緒に楽しみました。



▲中国人学生の話に熱心に耳を傾ける6年生



第15回私の異文化・海外体験

異文化体験で得たもの

これまでの海外旅行並びに海外体験は、正直なところ決して多くはなく、まして毎年恒常的に渡航する状況ではありませんでした。その中で、海外旅行はすべて20代に行っており、渡航先は米国西海岸(サンフランシスコ、ロサンゼルス)及びハワイ、そしてグアム、サイパン、ヨーロッパ各国となります。また、仕事関係での渡航は、韓国の釜山とベトナムのホーチミンとハノイとなります。この中で一番印象に残っているのは何といっても最初に渡航した米国西海岸です。その理由としては、卒業旅行ですので当時22歳で感受性が高く、見て聞いて体験したすべてのことが新鮮で、強く影響を受けたと今でも印象に残っています。当時(約40年前)は、東京にある高層ビルでは霞が関ビルに限られていましたが、ロサンゼルスに行った際、宿泊したダウンタウンのホテルの周りには数えきれないほどの高層ビルが建ち並んでおり、その威圧感に圧倒され、日本との違いを目の当たりにし驚きました。そして、米国の大らかな雰囲気の中にある、何事にもはっきりと受け答えする環境でした。それが旅行中に自然と身に付き、帰国後日本で生活する中で何気ない時に、その違いを感じました。これはあくまでも私個

飯谷 俊一郎(副学長・国際連携担当)

人の印象だとは思いますが、それだけ当時は感受性に富んでいたのではないかと記憶しています。

また、仕事の一環として渡航した際には、現地スタッフと行動を共にし、目的がはっきりしている中で国民性や文化、歴史に触れることで新たな発見を得ることができます。出発前には必ず世界地図を眺めながら位置を確認し、面積や人口について日本と比較することで事前に基本情報を得るようにしています。

学生の皆さんには、是非とも海外に行くことを推奨します。それも若いうちに行くことで得られる体験は何物にも代えがたいもので、これからの人生に必ず得るものはありますし、もしかすると大きな分かれ目になることもあります。国際交流センターは、皆さんの一歩踏み出す機会を応援しますので、国際連携室を一度訪ねてみてください。スタッフ一同皆さんを歓迎いたします。



▲ハノイ国家教育大学のみなさんと

国際交流センター構成員より一言

太田 茜 (現代家政学科)

9.11の後にカナダに緊急着陸した飛行機の乗客と地元の人との交流を描いたミュージカルをつくった人が「(乗客たちは)初日は見知らぬ人、次の日には友人になり、数日後に別れる時は家族になっていた」という地元の人言葉を紹介していました。他人が友人、家族になれるような素敵なことが対話でなされるのだと印象に残っています。

森 朋子(生活デザイン学科)

異なる文化の人と交流することは、実は特別なことではなく、日常のコミュニケーションの延長線上にあります。ほんの1歩遠くに行くだけで、自分の世界が2倍くらい大きくなりますので、ぜひ踏み出して見て下さい。

田中 千晶 (人間栄養学科)

国際交流センターでは、様々な国際交流の機会を提供しています。皆さんの新たな出会いの場として、積極的なご参加を楽しみにしております。

花田 朋美(生活デザイン学科・大学院研究科)

キャンパスで留学生に出会った時やアルバイト先で外国の方と一緒に働く時に『こんな時、あなたの国ではどうするの?』と身近なことからおしゃべりしてみてください。きっと新しい発見があるはずです。

マーク・ルイス(現代家政学科)

During the weekly English Salon, we talk about current news topics in Japan, for example: outdoor rice cookers, Japanese Good Design Awards, International Coffee Day, and seasonal chocolate offerings. Every week there is a new topic so you can practice speaking English in a stress free, informal setting, and you can make new lunch time friends. Please join in the fun each week.

海野 るみ (食物学科)

「行ってみたい」「会ってみたい」「食べてみたい」「見てみたい」…が国際交流のはじめの一歩です。あなたの中の「〇〇みたい!」を見つけたら、確かめに行ってみませんか?その方法は、いつでも相談してください。お手伝いします。さあ、あなたもはじめの一歩を踏み出して!

中田 範子 (児童学科)

国際交流センターでは、各種国際交流の機会を提供しています。最近では、オンラインを活用することで外国と気軽に繋がることの楽しさを体験できるようになりました。身近な場所で国際交流を楽しみましょう。

